令和３年７月７日

学校法人三幸学園
広島ビューティーアンドブライダル専門学校
校長　三川　和輝　殿

学校関係者評価委員会
委員長　小笠原　理恵

学校関係者評価委員会実施報告

2020 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

１　学校関係者評価委員
　①　田中　延恵　　（株式会社ＹＯＵ－２　取締役専務）
　②　小笠原　理恵　（第３期卒業生）
　③　森下　圭　　（飛鳥未来高等学校　広島キャンパス　教頭）

２　学校関係者評価委員会の開催状況
　令和３年６月 24 日（会場　広島ビューティーアンドブライダル専門学校　チャペル）

３　学校関係者委員会報告
　別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2020 年度　学校法人　三幸学園　広島ビューティーアンドブライダル専門学校
自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者　：　副校長　石橋亜希子
学校関係者評価報告責任者　：　学校関係者評価委員会委員長　　小笠原　理恵

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる(皆をハッピーにする)人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①前年度重点施策振り返り

〈重点施策〉

＊技術力を有する専門職に就く為に必要な資格取得とサービス業に従事する心構えを教育する。

・資格の必要性や資格取得のメリットをしっかり伝えと生徒に動機づけする。

・定期的な教科会を実施し、手合わせや検定合格に向けての具体策を考え実施する。

・検定WEEK等を使用しながら生徒のモチベーションの向上や知識・技術定着の体制を整える。

＊退学率を下げる為の改善が必要

・業界の魅力を適宜伝え、生徒の不安や悩みを相談できる環境を整える。

・生徒募集の際に、具体的な教育内容をしっかりと伝える。

＊同窓会組織の活性化・認知活動による卒業生支援

・地域企業との密な情報交換や連携を深め、卒業生の活躍を把握する。

・卒業生の現状把握や独立支援・卒業後フォローアップの為Sanko　Linkを活用する。

〈振り返り〉

＊検定合格率の向上

・入学当初に希望としていた資格に合格したことにより、卒業生アンケートの向上につながった。

・検定の数字的な結果が出たことにより、教員の意識が更にあがり、授業の質への良い影響となった。

・オンライン授業を実施したことにより、日頃重点的に実施できない学びを深めることが出来たことと。
オンライン授業を録画で何度も見られる環境が作れた為、検定前などの有効に活用することができた。

＊退学率の低減

・生徒の密な情報交換ができたことにより、生徒の不安を早い段階で解決ができ退学防止に繋がった。

・教員の認識や情報伝達の統一を図り、入学後の目標設定の際の動機づけを更に強化することができた。

＊卒業生支援

・コロナウイルス感染症において困窮する卒業生への支援を元に、卒業生の現状の把握。

②学校関係者評価委員会コメント

＊田中委員（トータルビューティー科について）

専門学生から求人応募があった際に、一番判断しやすいのは資格取得の有無である。そのため、資格の取得を重視する点は今後も専門学生にとっては必要かと思う。一方で、１年間のコロナウィルス感染の環境を経て実感したのは技術だけではお客様に足を運んでもらえないということである。技術ができていても、向上心やお客様とのコミュニケーションが不足している人材は、この状況下でお客様が離れたり、売り上げが伸びなかったりしている。サロンワークの重要性が非常にも高まっているため、専門学校でも重視して頂きたい。

＊小笠原委員（トータルビューティー科について）

専門学校で学ぶことは多くあるが、それがゴールではなく、実際は就職してからも学びは続いていく。資格や検定を取得することはもちろん大事であるが、社会に出てからも学ぶという向上心を専門学生のうちに持っておくと良い。そうすることで、就職をした際に生徒のうちには見えてこなかった売り上げの部分などに対して前向きに捉えることができるようになると思う。

3.評価項目の達成及び取組状況

（1）教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	2
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

①課題

三幸学園として取り組んでいるSDGsの達成に向けて取り組む。

②今後の改善方策

企業・地域自治体へ本校のSDGs取り組み内容を広く共有し浸透を図る。

③特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

＊田中委員

企業でも、経営理念・組織理念・人材理念の三本柱に沿って運営をしている。会議や研修、何をするにも理念に紐づけて行うことで、役職による差はあれども組織全体に浸透してきた。学校でも同様に、授業内などあらゆる所で理念を伝えることで生徒にも理念の重要性というものが認識されると思う。

＊小笠原委員

サロンなどでは理念をお客様に伝えた上で施術等の対応をしている所もある。インプットすることも重要であるが、アウトプットする機会を設けることで、理念に対する理解度はより深まると思う。

＊森下委員

学校では教員から生徒に理念が伝わっていくことになるため、学期始めなどの会議では必ず伝えるようにしている。また、掲示等を行い「見える化」をするようにしている。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務･財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

①課題

全国展開の学校法人の根幹となる運営方針、事業計画の策定、また人事労務制度等も充実している。

働き方改革や様々なダイバーシティを受け、コンプライアンスを遵守しながら、適材適所での活躍の場を提供できるように人材配置や業務分担を実施する必要がある。

働き方の多様化に伴い、オンラインでの業務遂行や在宅勤務に対する整備が更に必要。

②今後の改善方策

昨年度に引き続き、コンプライアンスやハラスメントの部分における理解を深める研修や事務局が設置され、教務関係や申請関係において迅速かつ正確な運営を実施。

また、中期経営計画策定後、丸1年を終え、目標達成に向けて、更なる課題を確認し改善に向けて施策を実施する必要がある。

③特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

＊田中委員

美容は在宅で勤務ということが難しい業種になるため、働き方が大きく変わるということはないが、時短営業などにより、営業時間を大事にしようという意識は以前よりも高まった。その工夫として、紙で保管していたようなものをデータに移行したり、店舗間での共有をネットワーク上のシステムを使ったりするようにした。学校運営上においても、事務業務の軽減が可能な所は進めていくと良いのではないか。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

①課題

新型コロナウィルス感染に伴い業界の業務形態や技術の提供が変化する中、現場のリアルな情報を収集し、必要とされる技術の習得に向けてカリキュラム内容の見直しや変更が必要。

今年度実施したメディア授業の内容を精査し、更に良い教育コンテンツを整備する必要がある。

②今後の改善方策

企業訪問、卒業生訪問、インターンシップ・現場実習など、教職員および生徒が現場の方と接点を持ち、随時情報を収集できる環境を整える。

また、現状の美容業界に必要な知識と技術を生徒が主体的に繰り返し学べるツールとしてデジタル教科書の作成を進める。

③特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

＊田中委員（トータルビューティー科について）

コロナ禍を経て昨年度より今年度において、だんだんと業界の売り上げが減少してきている。その為、より結果や売上が出せる人材が求められるようになってきた。これからは、どのように働けば結果が出せるかということを一人ひとりが考える必要があり、それは生徒の方も同様である。自分の強みや、足りていないところをしっかりと理解し、より良い人材となれるように自らが取り組んでいけるような授業・カリキュラムを展開していけると良い。

＊小笠原委員（トータルビューティー科について）

スクール事業などがある企業では、コロナ禍によりオンラインを多用するようになった。これまでの学びではなかなか触れられていない部分であり、苦手意識を持つ生徒もいると思うので、少しでもパソコンに触れる機会が設けられると良い。

＊森下委員（全体について）

高校でもICT 教育が始まったので、数年後は自ずとパソコンが使えるようになっていると思う。若い世代の方が新しいものを取り入れる力はあるので、ICT 教育と合わせて良い相乗効果を起こし、企業に役立てる人材になれれば良いと思う。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

①課題

卒業後の生徒支援として、Sanko-Link （WEB)が立ち上がっているが、依然として周知や運用が出来ていない。卒業後の支援体制を構築しているにも関わらず、周知が出来ていない状況が見られる。卒業後も継続的に卒業生の活躍を確認し、学校や後輩へ還元出来るシステムの構築が必要。退学率の低減を図ることができたものの、新型コロナウィルス感染症の拡大において、生徒の就職率が低下した。現状の美容業界のニーズや生徒の就職に対するスタンスを理解し、適切な就職活動を斡旋する必要がある。

②今後の改善方策

卒業前の生徒に対して、卒業後の支援体制があることを共有し、SANKO LINK 等の存在を認知していただく。
また、卒業してからも、研修等を実施し、現状の不安を解消することや、技術力の向上を促す、卒業生が学べる環境を提供していく。
卒業後活躍する卒業生へ、後輩への技術提供(技術動画の提供等)を行っていただく。

③特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

＊小笠原委員(卒業生支援について)

就職後も、学校でもっと学んでおけば良かったと思うことが多々あるので、卒業生も参加できるような研修や講義などは需要があると思う。

＊森下委員(卒業生支援について)

教室開放などを行い、卒業後も学校に練習に来たり、技術を教えてもらったりできるようなシステムがあれば、卒業生との交流も続き、連携等も深まっていくと思う。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路･就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校･高等専修学校等との連携によるキャリア教育･職業教育の取組が行われているか	2

①課題

今年度は卒業生独立支援として、新型コロナウィルス禍に伴って就業が困窮している卒業生への金銭的な支援を実施した。今後も卒業生からの声を受けながら、必要に応じて支援体制を整える必要がある。

引き続き、保護者支援に関しては、電話や保護者通信等を利用しながら情報の共有と指導に対する協力体制を整えようとしているが、なかなか、ご理解が頂けない環境も散見しだした。情報を密に、協力体制を整える必要がある。

②今後の改善方策

保護者との連携は、今後も細めな連絡を継続することで良好な関係を築き、生徒の後押しを担っていただけるよう働きかけをする。

卒業生の独立支援に関しては、独立をする前に必要な知識の修得や研修で情報提供が出来る場を創設する。また、卒業生へ迅速に情報を提供するために、Sanko-Link の視聴を促せるような発信を適宜する。

③特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

＊田中委員(トータルビューティー科について)

人材は足りているため、就職については本当に良いと思った人しか採用をしなくなっている。また、コロナ禍での就職難の影響もあり、短大･大学生などからの求人応募も増えてきている。そのような中で少しでも面接等で内定をいただく為の自己アピールをしたいのであれば、必ず他者と違う付加価値を持っておいた方が良い。特に、一度でも実際に店舗に足を運んだことがあるかどうかというのは重要な要素であるため、そのようなアドバイスを教員から生徒に対して必要だと思う。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設･設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災･安全管理に対する体制は整備されているか	3

①課題

オンライン授業や映像授業の準備が整い、各教室の映像機器の設置(プロジェクター)Wi-Fi 環境の整備ができた。ただし、生徒個人の授業環境の整備に差がある為、今後、ディバイスも含め生徒の授業環境の整備を進める必要がある。

②今後の改善方策

メディア授業に向けての、生徒の Wi-Fi 環境の確認と、SankoGate の整備。ディバイスの選定。

③特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

＊田中委員(実習･インターンシップについて)

コロナ禍以前は人材不足だったため、生徒がサロンへ実習に来ることは有難かった。現在は人材も足りており、繁忙期というものも失われつつあるので、インターンシップ生や実習生の受け入れが難しい企業も出てくる可能性があるかもしれない。

＊小笠原委員(実習･インターンシップについて)

現場としては、生徒に関わることで自分を見直すきっかけになっている。また、生徒のことを考えれば実習は良い経験になると思うので実施をさせてあげたい気持ちはある。ただ、情勢的に従来のやり方では難しい面が出てくることも考えられるので、期間や実施方法は検討の必要性があると感じる。

＊森下委員(メディアを使用した授業について)

オンラインの授業が導入されていているが、教える側がリアルの教育と同じように教えきれるのか、教育の質を保てるのか、というところが大事になってくると思う。ICT 教育がかなり加速しているので、学校側も対応できるようにしていきたい。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

①課題

なし

②今後の改善方策

なし

③特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

①課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

②今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2中期計画（2018年度～2022年度）の対象期間中であり、当該計画を着手している途中である。

【財務情報の公開】

なし

③特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

①課題

特になし

②今後の改善方策

特になし

③特記事項

特になし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

①課題

サロンワークの授業及びオープンキャンパス開催などとの調整の都合上、地域に対しての講座等の開校は現実的に難しい。

②今後の改善方策

インターンシップなどで授業単位に振替えることができれば実施可能だが、トータルビューティー科において、その制度は整っていないため要検討。地域や企業から求められるボランティアに関しては、積極的に協力できる体制を整え、生徒に学びの機会を提供する。

③特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

（11）国際交流（必要に応じて）

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	2

①課題

現状、分野特性として国際交流を進めるという観点を持てていない。

ただし、外国の方とのコミュニケーションが取れるように準備をしておく必要がある。

②今後の改善方策

検討していく。

③特記事項

なし

④校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

美容にこだわりがある人やプロの技術を求めている人は必ずいるため、美容業自体がなくなるということはないが、コロナ禍の影響や、セルフで出来ることも増え、お客様や売り上げはだんだんと少なくなっていくことが今後予想される。美容にお金や時間を費やすかどうかはお客様に判断がゆだねられているため、お客様に選んでもらえるためにはどうすれば良いかを考え、向上心を持って働くことのできる人材を育成していく必要がある。

また、サービス業として、これまで大事にしてきたものを守りつつ、新しい何か（付加価値）を取り入れていくことが必要であり、お客様が求めるサービスの上をいく「おもてなし」を早く見出し実践までできるように準備することが今後課題となってくる。